

会 議 録

会議の名称	第 2 回 杵築市行政改革推進委員会
開 催 日 時	平成 2 8 年 9 月 2 8 日（水曜日） 午後 2 時 0 0 分から午後 4 時 1 0 分
開 催 場 所	杵築市役所本庁舎 2 階 大会議室
議 題	別紙資料のとおり
記 録 方 法	☐ 全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
議 事 （ 1 ） 事業評価 （ 2 ） その他	
審 議 内 容	
（総務課長あいさつ） （欠席者報告） 2 名が仕事の都合により欠席。 （委員長あいさつ） ○総務課係長：私の方から、簡単に一つずつ説明しながらいきたいと思う。 ○委員長：その前に、スケジュールとして 1 3 7 件 2 時間以内に全部、やれるか。 ○総務課係長：昨年補助金も 1 3 0 近くあった。会議を 2 回で 1 3 0 くらいを終わらせた。今日はとても終わらないと思うので、目標として半分以上進みたい。	

○委員長：やっておいて、そこで意見が出たことを次回、副委員長が来るでしょうから、その時に確認をしてその次に片付けると、いうくらいで70くらいを目途に進めていきたいと。目標を4時。よいか。

○総務課係長：2時間くらいで。

○総務課係長：配布している資料を確認したいと思う。A3の横にしているのが一覧表としてまとめたもの。一番上に、健康福祉センター改修事業というものがあるが、それが今度A4の厚い資料が一つ一つの事業の詳細を載せている。1つの事業につき2ページ。裏表。健康福祉センター改修事業、事業名が1ページ目の真ん中の上から3番目の所が事業名になっている。最初のページの真ん中あたりに事業内容を書いているのでこの辺りを中心に説明したい。裏面を御覧いただきたい。裏面の一番上に事業の財源の内訳が載っており、真ん中辺りに担当課長の一次評価、その下に、総務課長の評価があり、今日、その下にこの委員会のコメントを一つずつ頂く。補助金の時と同じようなやり方でいきたいので、よろしく願いしたい。

（1 番健康福祉センター改修事業説明）

○委員長：これはほとんど起債か。

○総務課係長：はい。

○委員長：起債の場合は、裏打ちはどのくらい入ってくるのか。

○総務課係長：交付税措置は7割。

○委員長：7割。一般財源が3割程度ということで自前の財源もある。問題は、健康福祉センターの改修はして良いが、運営はどうしているのか。直か。指定管理か。

○総務課係長：シルバー人材センターに管理を委託している。

○委員長：委託か。

○総務課係長：指定管理ではない。

○委員長：管理委託していて、委託費は別に出しているのか。

○委員長：委託費がないと運営できないのか。

○総務課係長：はい。この事業はハードの分。建物だけなので、それは別に委託を。お風呂の番台にいる方とかそういう色々な管理をしている。

○委員長：利用率が高いので改修だから良いのは良いが、利用度などの程度か分からないのと。収支がどうなっているのか。それがないと、これだけ利用度が高い状況が分からない。その辺がちょっと。金額がかなりあるが判断に迷う。これを全部通すと5,500万円。5年間で。それだけ金をかけるということは、これだけ利用度があって貢献している何か説明資料があればいいがこれだけから見ただけにはわかりにくい。

○委員長：民間は厳しいので。民間は独立採算でやってないと金を出してはいけなくなる。5,500万円出すのはいいが、収支はどうなっているのかという所。利用者のニーズが高いということはいいいが、この健康福祉センター整備計画というのは、市が作っているのか。それとも何か委員会が作っているのか。

○総務課係長：委員会はない。

○委員長：じゃあ、お手盛り計画。これが、第三者の評価を受けているならいいが、この辺がないと意見が言いにくいところがある。どうか。これだけだと金額が大きいから。たぶん、副委員長もそこら辺同じ事を言うと思う。果たして、これはやる必要があるのか。委託しているということは委託料出しているのか。

○総務課係長：委託料をシルバーに出している。

○委員長：委託料を出さないと、指定管理と同じようにおそらく使用料を取っていると思う。使用料も取っており、なおかつ委託料を出さないと運営が出来ないということになると、ちょっとニーズが高くて果たしてずっと持つておかないといけない物かという話に

なりかねない。その辺が、金額が大きいから、5年間で5,500万円。単年度1,000万円ずつ出ていく。なおかつ、委託料が入ってくると。これは多分改修だけだから。5か年でこれは、改修を終わるということになるのか。よく分からない。1,100万円、2,300万円、1,200万円。という風になっているので。その後がどうなるのか。これだけやれば終わるのか。

○総務課長：とりあえず、老朽化した所から。

○委員長：それはよく分かる。老朽化していて利用度が高いので、説得力を高める為には過去の利用率、収支の状況を示してくれないとこれだけではなんとも言えない。

○総務課長：次回資料を提出する。

○委員長：運営資料の資料提出ということで。

○委員：1つ教えてほしい。平成27、28年度で2,600万円。これ、残りがほとんどないが。今回でほとんど終わらせようとしているのか。計画のすすめ方。前の方の予定のところにトイレの増築だけで2,600万円となっているが、それ以外何かあるのか。

○委員長：1ページ目見ると、平成28年度が温泉場トイレ増築工事、平成29年度は、屋根付き広場天井設置工事。屋根付き広場はあんまりお金。あ、平成29年度280万円か。今回のトイレが2,390万円かかっている。平成29年度が屋根をつけて、平成30年度は、多目的ホール樋の改修工事。平成30年度はあんまりお金がかからず120万円。平成31年度が屋根付き広場・屋根塗装工事等、これが平成30年度は120万円。平成31年度が1,970万円。平成31年度は、屋根付き広場・屋根塗装工事。平成32年度は載っていない。だから、一度にはやっていない。

○委員：さっき、僕も委員長と同じで、平成32年度以降は何もなければいいけど。ここで、全部終わらせようとしているのか。

○総務課係長：施設があるので悪くなった所から。

○委員長：細かいのは。大きなお金はおそらくこの平成27、28、31年度で、あとはこういうものが出る。

○委員：私もよく利用しているおり、トイレの増築など絶対必要だと思うから反対ではない。しかし、2,600万円もトイレの増築でかかるのか。

○総務課係長：いや。一番下に色々書いている。

○総務課長：グラウンドの整備、排水工事をやっている。

○総務課係長：こども公園も今年はやっている。

○委員：なるほど。大きい所を終わらせておこうという感じ。わかった。それは杵築市の考え方だけだから。内容はこういうのが入っていると。

○委員長：改修などは必要だろうから、あと説得力を高めるために過去何年間か分の収支状況、委託料、支払状況、収支状況を見ればだいたい。毎回、どのくらいお金を払っているのか。

○委員：お風呂は100円。

○総務課係長：市民の方は。

○委員：プールは300円。結構使っている。

○委員長：大分は、水曜か火曜か1時から3時までは老人、65歳以上は無料だとなっている。大分の舞鶴プールは。その時は、年寄りがいっぱいいるらしい。必要な施設は必要な施設だ。

○委員：結構、使われている。

○委員長：その辺が、利用者数の推移や、経営状況。それを補足資料で見たい。それで、確かに利用率高く、たくさん使っているとなればよい。

○総務課係長：市のいろんな事業の会議などでも使っている。

○委員長：金額も大きいからそういう確認もしてもらって。次回評価でよいか。

(継続)

(2番健康ウォーキング事業説明)

○委員長：趣旨は分かるが、専任ガイドなんているのか。ウォークロード専任ガイド。平成30、31年度はウォーキングイベントをやる。イベントやるのにこんなにお金を使うのか。

○総務課長：私は、ウォーキング事業やマイレージ事業や後で出てくる減塩対策事業等の健康対策を一本の事業にして、その中で今月はこの事業をやる等棲み分けをした方が効率的ではないかと思う。

○委員長：確かに。以前、補助金評価でお祭りとスポーツのイベントを全部見ながらやった。あれと一緒にだ。

○総務課長：だから、保健師の数も限られている中で、いろいろ小分けにしてやるとそれに人を取られるので、事業の見直しもするように指示している。

○委員長：イベントにこんなにお金がなんでかかるのかなという気がする。120万円。イベントするのに何の為のお金がこんなにかかるのかという気がする。これは、内容はイベントのことだけしか書いてない。マップを作るのは良いとしても。増刷か。これはマップの印刷費か。平成30、31年度が120万円、128万円。これも、マップの印刷費にしてもイベントにしても、どの程度のものか書いてくれていると分かりやすい。マップの印刷費がいくらで、イベントがいくら等。しかし考え方は同じ。二次評価の総務課長と同じ内容見直しでよいか。

(内容見直し)

○委員長：要は、行事自体の見直しと予算内容の見直し。両方とも。では我々も内容見直し。内容は予算と行事。

(3番健康マイレージ事業説明)

○委員長：平成28年度、37万7,000円だが。次年度は、市民全体を対象に拡大していくにも、お金は37万7,000円と同

じだ。

○総務課係長：２９年度から県が計画しているモデル事業に参加して事業を継続計画予定ということなので、もしかしたら平成２９年度以降は県と連携してやっていくのかもしれない。

○委員長：やる内容は良いと思うが、総務課長は他の事業と統一を検討する。他にいろんな類似の事業があるので要検討ということか。

○総務課係長：はい。

○委員：ここ、６４歳に限ったのは何か意味があるのか。

○総務課係長：６５歳以上だとまた違う事業で色々な県や国の補助金をもらってできるような事業があるからかもしれない。

○委員長：高齢者になる人。生産年齢の関係もあるのかもしれない。１８歳～６４歳で、一番高齢になるのだろう。モニターを２０組、最大１００人。平成２９年度以降は全市民対象。これ、相当大きくなるが同じような金額でできるのか。１００人で３７万７，０００円。全市民対象にして３７万７，０００円。

○総務課係長：全市民対象というのは、今委員が言ったように高齢者等限られた方々。

○委員：平成２８年度はモニターだから６４歳で調査している。その成果を平成２９年度に。わかった。

○委員長：まあ良いことだ。たいした金額ではないですが。しかし、同じようなことをやるのであれば統一を検討して整合性をみてやって貰いたいというのが総務課長のご意見。我々も同じでよいか。

（内容見直し）

（４番総合型地域スポーツクラブ支援事業説明）

○委員長：当然補助が終わるのは分かっているので、ある間に自立しないといけない。これは当然、内容見直し。自立を早急にやってもらうということになると思う。どんなスポーツをどうやっている

か分からないのでその辺は少し説明があると。どういうスポーツに取り組んでいるのか。全部で210万円か。要は、平成29年度を最後にして平成30年度は自立をしてもらうということか。そこで利用料を払って貰い、参加料を払ってもらってそこで自立をしていくということになっていくだろう。それがいきなり難しいのであれば、平成30年度以降にどういう形になるか要相談になっていく。借金の。とりあえず、今の段階では平成30年度には自立をしてもらうということか。よいか。

（内容見直し）

○委員長：これはこのまま内容見直しということで、要は平成30年度には自立をしてもらう。

（5 番減塩対策事業説明）

○委員長：減塩ヘルシーメニューの開発と実態調査。少額だが、要は未病対策。健康マイレージ、減塩。総務課長と同じように、内容見直しでよいか。

（内容見直し）

（6 番自殺予防対策強化事業説明）

○委員長：事業実績で杵築市職員向け研修が2回、事業所向け研修が1回。

○総務課係長：平成27年度に行った実績を載せている。

○委員長：そうだね。こういうのが分かり易い。職員研修が2回あって、事業所研修が1回しかないのか。それも参加者が、職員向けが2回で137名、事業所向けが16事業所で18名しかいない。効果があるのだろうか。いのち110番とかよくかかっているが。少額ではあるが。

○総務課長：2回というのは一度に研修ができないので2回に分けてしたということ。

○委員長：自殺予防強化対策事業として公金を使って、職員の研修

をやる程の内容なのか。主な推進は、職員向け研修137人で、民間向けは18人しかいない。対面型相談も少ない。どうなのかなと思う。

○委員：私も同じことが気になった。事業者というのは、基本的には、事業者がやるのではないか。杵築市職員は確かに事業所という目で捉えれば杵築市がやらなきゃいけないが、全市民に対するやつ。ちょっと、違和感がある。

○委員長：限られたところなので、市民に対する啓蒙普及の方が大事であって、個別相談を市がやらないといけないのか。

○総務課長：職員も市民から相談などがあった時に、どう対処したらいいかという事があってした。研修会はしたがこれは県の事業でもあるのでお金はかかっていない。

○委員長：県の支出金か。ごめんなさい。だから県が3分の2くらいで市が3分の1くらいか。県の支出金が入っている。そしたらこのまま行こうか。

○委員：そうすると主に事業というか、街頭キャンペーン・ケーブルテレビ等で。

○総務課長：啓発して、相談があれば。

○委員：それはいいことだと思う。そういう街頭、あるいは、テレビとか。

○委員長：事業効果の高いものに、集中的に取り組んで欲しい。ただずっと続けるだけでなく、いろんな取り組みをやった中で、県の助成金も入ることだが、事業効果を高める検証をしてもらいたい。こういった所が必要かと。

○総務課長：なかなかそういった相談件数が少ない。だから未然の為に高校生や若い人達に早くから啓発していくことが大事。

○委員：ちなみに死亡率というのは10万人で19.24人か。

○総務課係長：率ではなく人。19.24人。

○委員：ということは、杵築市だったらだいたい3分の1と考えて年間6人とか。こんな感じか。

○委員長：若年層の自殺対象なのか。健康長寿あんしん課がやっているが、これは若年者の自殺が多い現状からターゲットを絞り込んで、中高生に対し直接働きかけていきたいと。そういうことか。これはこのまま継続でいくか。

（継続）

（7 番歯科保健推進事業（子ども）説明）

○委員長：やれば良いのは良いが。完全にこれは市単独事業。

○総務課係長：全額単費。

○委員：これもそうだが、先程ずっと出てきたやつも全て、基本的に目的というのは、早いうちに治療をさせて健康保険代というか病院代を押さえようとするのが狙いと理解してよいか。

○総務課係長：はい。

○委員：必要と言えれば必要。

○委員長：必要は必要だ。しかし、市単独でやっている。県も国もやってない部分を市単独事業で。

○総務課係長：はい。県が助成してくれてもいいと思う。

○委員長：県も負担してくれるならいいが。ただ、そういう余分なお金がかからないように医療対策を早め早めに手を打つ。小さい時から。よいか。

（継続）

（8 番歯科保健推進事業（おとな）説明）

○委員長：このくらいの金額だからいいが、逆にこのくらいの金額だからやらないといけないのか。対象も100人程度。

○委員：これも、県の支出金があるのか。

○委員長：10分の1程度。

○委員：それより子どもの方に出して欲しい。

○委員長：そうだ。子どもの方に付けるならいいが。大人は、自分の責任で。県のお金が出ているが10分の1だから。

○委員長：受診者も100人程度。何もかもなくなったら困るだろうがどうだろう。

○総務課長：平成28年度から実施した事業で、これからもっと周知しなければいけない。

○委員長：平成28年度から始まったのか。それはもう少し続けな
いとしょうがないということかな。平成28年度新規だから。
いきなり駄目と言うわけにはいかない。それではとりあえず継続
で、事業効果を検証してもらおう。よいか。

（継続）

（9番予防接種事業説明）

○委員長：市単独なのか。

○総務課長：たぶん交付税措置。

○委員長：これはせざるを得ない。

○委員長：予防接種は、重篤な病気になるより接種を受けた方がい
いということで、継続でよいか。

（継続）

（10番基本健康診査事業説明）

○総務課長：基本的に、事業所で健康診査するが、その事業所で来
ていない方を対象に。

○委員長：フリーターの方など。健診が市報に載っている。これも
継続でよいか。

（継続）

（11番各種がん検診事業説明）

○委員長：これも交付税措置か。

○総務課長：はい。昔は、補助金だったが、だいたい定着してきて
から交付税措置となった。

○委員長：これは早期発見ということで、国策だからよいか。

（継続）

○委員：ちなみに、平成２８年度から平成３０年度までの予算と言うのは今の受診率で考えているのか。それとも、少し上げた受診率で考えているのか。さっき、総務課長が受診率を上げると言ったから、予算が上がっているのは受診率の向上を考慮しているのかと思ったが。

○委員長：未受信者への啓発も書いているので。

○委員：もし、もっと増えたら、もっと予算も増えるということに基本的になるのか。

○総務課長：ただ、急激な受診率の上昇は期待できない。行かない人は何を言っても行かない。

（12番肝炎ウィルス検診事業説明）

○委員長：これは、普及状態が低いから県の支出が大きいのか。

○総務課長：はい。定着していないから。

○委員長：これも、よいか。

（継続）

（13番食生活改善推進事業説明）

○委員長：よいか。

○委員：今、減塩対策事業と出たが、あれこそこっちの方に入れたらどうか。

○委員長：他の事業と一緒にすることも検討とコメントしよう。

（継続）

（14番健康教育・相談事業説明）

○委員長：先程と一緒に、内容見直しでよいか。

（内容見直し）

（15番新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業説明）

○委員長：これは県の支出金の関係でNO. 11の各種がん検診事業

とは一緒にならないのか。同じような感じがするので、他の事業と統一検討すべきと言いたいところだが、年齢が限定的だし先程のものはおそらく県の支出金になっているから、交付税措置なので一緒にできないのだろう。

○総務課係長：はい。

○委員長：であれば、所属長の意見どおり、継続しかない。よいか。

（継続）

（16番救急医療施設運営対策事業説明）

○委員長：負担金。県の医療計画の中で、1次医療圏と2次医療圏を決められて、負担金だからどうしようもない。財源は地方債。一般財源。

○総務課係長：地方債とその他財源。

○総務課係員：その他は日出からの負担金。杵築がまとめて医師会と契約して払う。

○総務課係長：1次医療圏の日出からの収入。

○委員長：日曜担当医などをちゃんと用意しておく為の財源というわけか。どのくらいの実績があるか知りたいところだ。額が大きい。それだけしておかないといけないのだろうが。毎年1,000万円。

○総務課係長：ではそれも資料を担当課に出させる。

○委員長：実績を。こういものをやらないという訳にはいかないだろうが実績を見せてもらおう。県の医療計画に基づいてやっているからどうしようもないだろうが。それぞれの地域に割り振られているのだろう。継続になるだろうが、とりあえず実績を見てから判断。

（保留）

（17番小児救急医療支援事業及び小児初期夜間救急医療事業説明）

○委員長：これも実績が出ている。大体子どもは夜とか休みに悪くなるからこれは仕方がない。１次と２次で別府の方。そっちの方の委託をすることになる。これはよいか。

（継続）

（18番へき地公立病院地域医療・地域包括ケア研究協議会説明）

○委員長：何をするのか。国東市を事務局にし、３地域の自主的取り組み、総会、研修会、講演会。大分大学地域医療センターに委託し、３地域ごとの課題の研究・技術的指導等。平成２８年度に作ったので継続でいいが、事業内容の検証。よく分からない。

○総務課長：情報交換の場と、特に医師確保が難しいのでそういった情報を連携して、医師の確保をする。特に杵築市は今度病院の建て替え問題もあるので、そこら辺の情報収集のためもある。

○委員長：そういうことで、新たに予算を組んだのだろう。

○委員：この３つは、先程言った新しい病院ができればここは変わってくるのか。

○総務課長：いまも、２次救急になっている。

○委員：新しい病院ができて、新しい病院で杵築は杵築である程度治療できるから別府だなんだかんだいうのは変わらないのか。

○委員長：診療科目や機能的にそこまでいかないだろう。病院をつくるときに医療計画を作るだろう。そこまでは想定していないだろう。

○委員：本当はいまこのへき地云々の話などは新病院設立する時に新病院計画に反映していくべき話じゃないかと。

○総務課長：本来、もっと早く立ち上げるべきだった。

○委員：新病院がいつからかわからないが。

（継続）

（19番地域福祉拠点の整備（社会福祉協議会補助金）説明）

○委員長：継続と言っていたか。

○総務課係長：はい。杵築市社会福祉協議会補助金。これは皆様の評価は、支出は妥当であるという評価。

○委員長：地域福祉の向上の構造の為には仕方ないというところか。

○総務課長：ただ、社協は、自主財源が乏しくなっているので見直しを、ということ所屬長も言っているので、事業改革を計画する。

○委員長：それがそうか。事業内容について事業改革計画を策定させるという所がそういうことか。そういうことが入っていて継続ということか。よいか。

（継続）

（20番地域福祉拠点の整備（民生・児童委員活動補助金）説明）

○委員長：財源もこれは県が出すのか。3分の2県費が入っている。所屬長の方で、活動・現状分析をやって課題を抽出して解決検討と書いているし、財源も県費が3分の2入っているということで継続でよいか。

（継続）

（21番老人介護手当給付事業説明）

○委員長：こういうことも市がやらないといけないのか。消費税を取られて、介護保険取られて。直接介護者に行くわけではないので。これは要介護の人を介護している人にいくわけか。

○総務課長：施設に行けば市の負担がそれ以上になるので、在宅で見てくれば。

○委員長：できれば、在宅でやってという方針が出ている。そういう施設に行ったら多額のお金がかかるので、在宅でやってもらう分に対して支援をするという、趣旨からいけばよいか。

（継続）

（22番生きがい活動支援事業説明）

○委員長：ここは、利用率が高い。原則として1人週1回程度。本人の状況等によれば原則として週1回程度。利用者に負担金を取っている。1回1,000円。ということは、本人は3分の1負担をしている。他市も同じようなことをやっているのか。

○総務課長：これも、要支援がなくなって、介護からはずれた人を救う意味での事業。杵築市はそれに取り組んでいる。やはり介護の持ち出しが大きいので、介護保険をなるべく使わないように、要介護からはずれるように回復にもって行って、その分これでカバーする。

○委員長：要介護からはずした分をこっちでカバーして、それがどれだけ浮いているか。そういうことか。こっちからできるだけ使って、要介護をはずしていこうと。

○総務課長：だから、年間200人くらい要介護から外れているみたいだ。

○委員長：そうだろう。これを見ると200人増えている。200人というのは、要介護からはずれているのか。40万8,000円増えているが、要介護から外れることによって持ち出しはもっと大きく減っているということか。それであれば継続でよいのか。金額はちょっと大きくなるが。

（継続）

（23番在宅高齢者住宅改造助成事業説明）

○委員長：これは県と市が半分ずつか。

○総務課係長：はい。

○委員長：県と国がついていたらいいのかなと。

（継続）

（24番地域緊急通報システム推進事業説明）

○委員長：それは、ボタンは音が鳴るだけか。緊急通報装置の無料貸出を行う。装置の緊急ボタンを押すと、市と契約を結んだ24時

間対応の受信センターと繋がり受信センターと繋がり。とあるから、話はできるのだろう。これは、国も県も入っているのよいか。

（継続）

（25番杵築市立地適正化計画策定説明）

○委員長：コンパクトシティを進めていく中で、いろいろ言われないうちにこういう計画があります。ということでせざるを得ないのだろう。こんなに金を掛けて民間に委託してしなくても良さそう感じがするが。

○総務課長：国の補助事業。

○委員長：補助事業か。

○委員長：じゃあ、いろいろ言わなくてもいいか。コンパクトシティを言い出してだいぶん経つ。青森と富山を事例にあげて言っている。

○委員：これは、国がやるから半分だが、これは意味があるのか。

○総務課長：杵築市の都市計画みたいなもので、どういうまちづくりをするかという計画をたてる。

○委員：去年か、補助金の事業みたいな杵築市のまちづくりの計画をしていなかったか。

○総務課長：この市街地の。それもあった。

○委員：あれとは別か。

○総務課長：別だ。今度は広い意味で。

○委員長：コンパクトシティだから。要は、主要施設をコンパクトな所にまとめようと。そういう物をつくっておかないと中心部に物をつくる時に周辺部にいろいろ言われると。今後、人口減少期を迎えた時にはコンパクトシティに進んでいく。

○委員：杵築地域全部、山香、大田。何をするのだろう。すごく無駄なお金。

○総務課長：中心地にどんな施設を持ってきたらいいのかや、特に先程も山香病院とか公共施設をどうあるべきかなど計画をたてるということ。あと、どこら辺を住宅地にする、交通網をどうする等。

○委員：誰がやるのか。

○総務課長：計画や調査は民間委託。

○委員：やるなら無駄金になってほしくない。半分は杵築市が負担するのだろう。かなり難しいと思う。受けた会社が、いい仕事をもたらったというだけの話で終わっては意味ない。

○委員長：あんまり計画づくりのものでやっても役にたってない。

○委員：そんな感じだ。やるなら本当に、金はいらないからやらしてくれ。というくらいの会社にやってもらって。

○委員長：しかし、これは今年度臨時予算がついている。

○委員：是非、意味のある計画をつくって欲しい。

○委員長：継続で仕方ないが書いておこう。継続で意味のある計画づくりにして欲しいと。

○委員：そうだ。たぶん、パブリックコメントに出しても誰も何かよく分からないから、まあ、いいのではないかな。くらいで。

○総務課長：はい。パブリックコメントはあまり返って来ない。

○委員：是非、意味ある計画にしてほしい。

○委員長：意味があり実効性のある計画。

○委員：そうだ。実効性。計画したらやろうと。

○委員長：さっき言ったように、市が独自でやると周囲からやんやん言われるから、第三者委員会で作ったものであればこっちであるのでと使いやすいということもあると思う。市がつくると色々言われる。予算がもうついていてどうしようもないが、つけてしまったのならそれは意味のあるものにしてほしい。今からつけるなら止めとけと言う。なかなかそういう訳にはいかないだろうが。よいかな。

(継続)

(26番消防基盤の整備(非常備消防機械器具整備事業)説明)

○委員長：これはいいだろう。物がないとどうしようもならない。

(継続)

(27番消防基盤の整備(消防施設事業)説明)

○委員長：これも、しょうがない。金がかかるが。国庫も入っているし。継続。

(継続)

(28番自主防災組織の設置と活用・防災士の養成説明)

○委員長：これはいいが、防災士が機能してないのではないか。結局地域割りで各自治会から出している。年配者が取っても難しい。実際災害が起きた時、防災士が中心になっていろんな対応するシステムになっていない。防災士を育成するのに補助金を使ってやるのはいいが、実際防災士は活動できる防災士なのか、養成した防災士をちゃんと訓練させているのか、この辺が問題。

○総務課長：それこそ、先週の日曜日に防災士の研修会をしたが、やっぱり徐々にレベルアップをするために、前は聞くだけの講習会だったが、今は実地訓練、実際に起こった時にどうするのかということで模擬訓練みたいな事をやり始めたところだ。

○委員長：段階がある。まずは、防災士を配置する。ある程度配置したら実際、今度は使える防災士にしないとイケない。そういう訓練だろう。

○総務課長：それと、防災訓練を防災士が地区に中心になるということも今進めている。

○委員長：そういう人が防災士になっているかどうか。そういうことをやるならば当然やらざるを得ないだろう。よいか。

(継続)

(29番地震津波等避難場所・避難経路の整備説明)

○委員長：補助金よりも起債の方がよいのか。

○総務課長：補助金がない。

○委員長：これもしょうがない。よいか。

（継続）

（30番県単補助治山事業説明）

○委員長：これはいい。県の支出金。

（継続）

（31番防災ダム事業（地震対策ため池）説明）

○委員長：国からの補助金及び交付金事業。実施主体が大分県か市に限られる。財源は地方債。地方債は一般財源。事業主体は、大分県か市。財源というのは、地方債と一般財源。ちょっと意味が分からない。やらざるを得ないのだろうが要確認。

○総務課係長：確認して後ほど説明したい。

（32番農村地域防災減災事業（ため池緊急防災体制整備促進）杵築市第3地区説明）

○委員長：これもいい。国庫支出金だ。継続でよいか。

（継続）

（33番市町村営急傾斜地崩壊対策事業説明）

○委員長：県の支出金と一般財源と半々程度で。これは、やらざるを得ない。よいか。

（継続）

○委員：さっきのやつで、課題の所に申請箇所が相当多いと書いてあったが、これは誰が決めるのか。今年は、これしよう。あれにしよう。

○総務課係長：建設課に係があるので、緊急性や優先順位を決めてやっている。

○委員：不公平な感じになっているわけじゃなく、技術的に見て。

○総務課係長：そうだと思う。

○委員：相当時間がかかる。平成31年度まで続いているし。

○委員長：毎年1か所くらいしかできないからずっと続けてかないと。緊急傾斜は多いから。

○総務課長：先程のため池、担当者が今日いなかった。

○委員長：次回にしよう。

（34番県施行砂防事業負担金説明）

○委員長：これは仕方がない。

（継続）

（35番道路ストック総点検事業説明）

○委員長：これは、国庫支出金と一般財源だから。国が主体にやれる分で市が順次やっていく。よいか。

（継続）

（36番防犯体制の強化（防犯灯維持管理事業）説明）

○委員長：これは、いいか。

（継続）

（37番防犯灯LED化推進事業説明）

○委員長：平成28年度5,800万円、平成29年度380万円だから、平成28年度でほとんどやってしまうということか。これ、2万5,000円の補助金を出した場合に補助率は何%になるのか。

○総務課係長：地域に対してか。

○委員長：1基2万5000円だろう。

○総務課係長：全額補助。

○総務課長：大体、2万5,000円でやってくれるということだ。

○委員長：100%。地域の負担がないということか。

○総務課係長：ない。

○委員長：分かった。地域の負担になるから。ずいぶん明るくなる

し電気代も安くなるしよいか。

(継続)

(38番定住促進事業の推進説明)

○委員長：これについては、補助金評価でもあった。

○総務課係長：はい。支出は妥当である、継続との評価。

○委員長：これは拡大と書いているがどうするか。同じでいいか。
これからも、定住促進が多くなるから。

○委員：これは、他市と比べたらどうなのか。

○総務課長：バラバラだが杵築市は良い方だ。最近空き家の登録も多くなったので拡大してどんどん活用できるようにしたい。

(拡大)

(39番空き家バンク登録謝金制度説明)

○委員長：継続か。

○総務課長：拡大という意味が、件数を増やすことが拡大にはならないと思う。色々な施策をすることが拡大になるので、例えば、謝金でなく、また違った補助を出すよいうのが拡大になるので、拡大ではないと思った。

○委員長：継続でいいか。

(継続)

(40番杵築市を「見て・聞いて・知る」体験ツアー説明)

○委員長：国庫支出金も付いているから問題はないが、参加者が少ない。継続はいいが、参加者数の増大に工夫をしてもらいたい。

○総務課長：平成28年度、応援隊も入れてアピールをするようにした。

○委員長：参加者増を積極的に図ってもらいたい。

○委員：ちなみに、申込んだ人は、交通費、宿泊代等のお金は出すのか。無料か。

○総務課長：無料ではなかったと思う。

○委員長：無料だったらこんな数ではないだろう。

○総務課係長：無料だったらいっぱい来ると思う。

○委員：じゃあ、ちょっとお金をとって。

○委員長：ある程度、補助だろうが。事業の目標のところに、1泊2日プラン。6人×2回のところ、負担金がいくら位かかるのか。自己負担。要調査。

○委員：高くすれば来ないかもしれない。安くすればたくさん来て。

○委員長：いずれにしても、参加者を増やして欲しい。

（継続）

（41番出会いサポート事業説明）

（内容見直し）

○委員長：意外とカップル成立がある。総務課長は内容見直し。参加状況、それから成立状況。これもどのくらい負担金がかかるか。

○総務課長：食事代くらい負担があったと思う。

○委員長：自己負担がいくら位か教えてほしい。

○総務課係員：はい。

（42番市営住宅ストック総合改善事業説明）

○委員長：既存の建物の長寿化か。

○総務課係長：はい。

○委員長：国庫支出金も半分出ている。いいか。

（継続）

○委員：これは、改修しても入る人はいるのか。入っているのか。

○総務課長：入っている。

○委員：大体どこに行ってもアパートはいっぱい空いているが。

○総務課長：民間のアパートは。

○委員：ここは大丈夫か。

○総務課長：杵築市はほぼ。

○委員：分かった。

（43番肉用牛大規模経営体育成事業説明）

○委員長：杵築として、肉用牛振興をどういうふうにやっていくのか、基本的な施策を何かしないといけないという話をしたような気がするが。いいのはいいが、これから先も牛をやるのかどうかというような話をした気がするが。これは牛舎の補助だろう。

○総務課係長：はい。

○委員長：そんな記憶が少しあるが。いずれにしても県の支出金が入っている。

○総務課係長：補助金で一昨年から始まったもの。補助金の評価の時も支出は妥当である。という意見を頂いている。

（継続）

（44番体質強化整備事業（旧：生産性向上強化施設整備事業）説明）

○委員長：県が入っているから。酪農で牛舎を建てるくらいだったら、こういうものもやらざるを得ないだろう。

（継続）

（45番乳用種性判別凍結精液導入事業説明）

○委員長：これは、市単独か。

○総務課係長：はい。

○委員長：単独補助事業のため、民間委託との検討はないのか。金額はたいしたことないが。けっこう需要はあるようだ。需要があるなら、この程度の金額なら継続でよいか。

（継続）

（46番おおいた豊後牛生産向上対策事業説明）

○委員長：県が力を入れている事業だ。継続でよいか。

（継続）

（47番杵築市地域活性化センター参画事業説明）

○委員長：種苗を売ったり、堆肥を作ったり。総務課長の意見で、自立に向けてやってもらおうと。

○総務課長：組織の中でも今中身の見直しをしている。

○委員長：内容見直しで、自立に向けた検討を。

（内容見直し）

（48番稲発酵粗飼料普及推進事業説明）

○委員長：市の単独事業。所属長の評価は、平成30年度の直接支払交付金終了に向けて、WCSの普及を推進する必要があること、作付面積が毎年拡大していることから、継続の必要がある。継続でよいか。

（継続）

（49番畦畔省力化支援事業説明）

○委員長：これは記憶にある。畦に草を生やさないため。

○総務課係長：はい。

○委員長：よいか。

（継続）

（50番SGS普及推進事業説明）

○委員長：平成29年度は国庫支出金が入って、あとは少しずつ一般財源が出ていくようになっている。継続でよいか。

（継続）

（51番生産基盤整備対策事業説明）

○委員長：これも、県が3分の2、市が3分の1、大分県の代表産品なのでよいか。

（継続）

（52番民有林造林支援事業説明）

○委員長：これ、財源が括弧書きなのはどういう意味か。原則、国庫支出金と県費が大半を占めているのか。

○総務課係長：これ、たぶん括弧の中の金額が国庫の補助がある。

この事業でなくて、これくらいの事業があって、さらに上乗せするという一般財源の３５万３，０００円。これが、国庫の補助の上乗せをする金額の３５万３，０００円だと思う。だから、この事業には国庫の１３８万、県の５３万６，０００円はないが、同じような民有林の造林事業で国庫補助の事業があるが、それに更に上乗せする分が単費で一般財源だけで、３５万３，０００円払っていることだと思う。上乗せ分の事業。

（継続）

（53番森林環境保全直接支援事業説明）

○委員長：国庫支出金と県費が主体になっているから、よいか。

（継続）

（54番有害鳥獣捕獲事業説明）

○委員長：これもよいか。国庫支出金、県費、地方債も少しあるが、国庫と県費が同額程度出ている。必要な内容だ。

（継続）

（55番有害鳥獣被害防止対策事業説明）

○委員長：これは助成率が少し低い。市が３分の２、県が３分の１。

○委員：さっきのは、捕獲に対するもので今度は設備か。

○総務課係長：はい。

○総務課長：私の意見を付け加えているのが、同じ人に偏らない様にと。毎年、これだけお金を掛けているからもうそろそろ終わってもいいと思うが、続くということとは偏ったよったものがあるのかなと。

○委員長：その辺、一言。同じ意見で継続。

（継続）

（56番別杵速見森林組合負担金説明）

○委員長：これは、しょうがない。

(継続)

(57番活力あふれる園芸産地整備事業説明)

○委員長：県支出金が3分の2、一般財源が3分の1。よいか。

(継続)

(58番薬用植物栽培支援事業説明)

○委員長：これはおもしろい取り組みだ。所属長も総務課長も拡大。こういう特殊な物を作っていくと。平成28年度は若干国庫が入っているが、それからは市が単独。状況も順調であるということだから、どうせやるなら事業を拡大していく。ただし、総務課長については内部をよく検討して拡大をと。市の重要施策だ。

○総務課長：杵築市が西日本で初めて。

○委員：これは、誰に補助するのか。

○総務課長：補助ではない。事業費。

○委員：誰が事業をするのか。

○総務課長：市の事業。種を買ったり、薬用植物の育成の為の事業。

○委員：支援事業となっているが。

○委員長：今、山香農業高校の学校圃場における試験栽培及び経過観察、種子及び薬用部位の採取・研究という状況。

○総務課長：圃場の管理を活性化センターに委託している。

○委員長：実際は、栽培補助管理委託で杵築市の活性化センター、指導委託が東京生薬協会ということか。

○総務課長：はい。

○委員：分からないのは、相手の方からはお金は来ないのか。

○総務課長：杵築市の方で生産をして売りつける。

○委員長：指導を受けて、生産してそれを生薬協会が買い取ってくれるのか。

○総務課長：それで、農家にやってもらって農家が収入を得る。

○委員：共同事業ではないのか。杵築市で作ったやつを相手に買ってもらう。

○総務課長：はい。ああいう所は絶対無農薬なので契約栽培のようなものだ。今試験的にやっている。

○委員長：試験的にやってそれが軌道にのればみんなに作ってもらって買って貰おうと。それで重点施策にしている。

○委員：市が持ち出しになっているわけでもないのか。

○委員長：初期投資でしょ。

○委員：それで成功して農業者が売るわけか。

○総務課長：苗を分けて、それを植えてもらい、できた物を薬品会社を買ってもらう。

○委員：杵築市は何のリターンがあるのか。

○委員長：農家の所得が上がれば税金が入る。

○総務課長：田んぼだと農薬がかかるので、中山間地で作ってもらい、中山間地の耕作放棄地が減少するとか、年寄りでも若干作れるような収益を上げるということだ。

○委員：よく分かるが、なんとなく一事業者にひいきで金を払っている気がする。

○総務課係長：杵築市全体の農業振興というか、農家の人が試験的にやっている。良い物ができれば、皆で栽培をすれば農業振興にも繋がるし、農家の人達の収入の増加につながる。今の所は試験の段階。

○委員長：今、生薬協会から指導を受けている。

○総務課係長：はい。

○委員長：山香農業高校の試験圃場でそれを栽培。それが上手くいくとそういう種子を分けて皆で作って貰いましょうと。

○総務課係長：杵築市の新しい産品というか、特産品に。

○委員：それでも、平成31年まで続くのか。

○委員長：１～２年は続くだろう。

○総務課長：苗は農家では作れないので、杵築市がずっと続けるような形になるのかと。

○委員長：活性化センターと同じような。これは面白そうな話。よいか。

（継続）

（59番世界農業遺産活用推進事業説明）

○委員長：これは、農業文化公園も作っていないか。

○総務課長：文化公園も作っている。他の圃場でも七島いをしている。県協議会との協同事業であることから、民間委託は不可。県の協議会の協同事業でしている。よいか。

（継続）

（60番杵築ブランド強化推進事業説明）

○委員長：これはいい。国庫が３分の２入っている。こういうのは非常に大事なことになるので継続でよいか。

（継続）

○委員長：これで60件だが、２回目はスピードアップして。これを貰っていたら要領がわかってきたので。今日、お願いした所の資料をいただき、次回で終われるように頑張りましょう。色々ありがとうございます。だいぶん合理化ができてきている。

○総務課長：また次回に向けてよろしくお願いします。今日は、ありがとうございました。